

中部日本ニュース

シネスコ版

本誌 = 2-ス No 316
別冊 = 2-ス No 184
中口 = 2-ス No 197

No. 521

39. 1. 10

一、高橋、世界の夢消ゆ

——世界ジュニア・ウェルター級選手権戦——

プロボクシング世界ジュニア・ウェルター級チャンピオン・エディ・パーキンスと高橋美徳のタイトルマッチ十五回戦は新春の四日、蔵前国技館特設リングで行なわれました。

第一ラウンド元氣よくとびだした高橋はチャンピオンの左フックを受けて早くもピンチに立たされました。しかしその後かたさも取れてパンチを秘めたワンツウを出して反撃。それにもましてチャンピオンはかたいデフェンスと軽快なフットワークで高橋をかやし、左手を下げた変則的なフォームからくり出すスピードのある左フック、アッパーで着々ポイントを重ねてゆきます。

第十三ラウンド、既に疲れの見えた高橋にチャンピオンの腰の入った左右フックが決りカウント8のダウン。根心の力をふりしぼって立上がった高橋をねらい打ち、二度目のダウン。日本初の重量級世界タイトルマッチはパーキンスの初防衛に終ったのです。

カメラ・スケッチ

一、新春

一九六四年、オリンピック・イヤールの新春は全国的におだやかなお天気に恵れ、大した事故もなく、まずはめでたいすべり出しでした。

ここ東京の明治神宮外苑では、六日消防のご用始め、恒例の「出ぞめ式」が行なわれました。

二千九百人の消防隊、百三十六台のポンプ車やハシゴ車が勢ぞろい、昨年、戦後最高の火災件数、そして焼死者を記録した後だけに、三万の人が見守る中を式は、はなやかに、力強くくりひろげられました。

一方七日は泣く子もだまる東京警視庁の白バイ部隊とパトカー隊が東京郊外にある不動尊でますます増える悲惨な交通事故をなくそうと、わが身と都民の交通安全祈願をしました。交通安全のこわいお目付け役も今日ばかりは神妙そのもの、本尊で護摩をたいたと、境内でおはらい。そしてそここさと新春の町に帰って行きました。

そして松の内を過ぎた八日、小中学校は全国一斉に新学期をむかえました。

この日東京目黒の五本木小学校児童およそ七百人は、そろって元気に登校しました。教室では正月のお餅、お手玉、タコ揚げ、羽つきなど大はしゃぎです。

また同じ八日の屋下がり、下町の浅草鳥越神社では、七草明けに注連飾を焼いて無病息災を祈るどんどん焼が行なわれました。狭い境内には、約七千軒の氏子を持って来た注連飾や守り札を山のように積み、宮司の手で火がつけられるという江戸時代から長く受け継ぐ行事なのです。しかしかたずを飲んで見守るのは消防のおじさん達。火の子が舞い上がるのを見てはホースで懸命の消火。何はともあれ一九六四年はおだやかに出発したのです。

487

402

184